

令和5年3月17日  
北九州市若松区役所総務企画課

報道機関各位

「若松の未来をつくる検討会議」報告書（案）に係る意見募集について

本市では、PCB廃棄物処理事業の継続に伴う更なる地域振興策を検討するため、昨年11月から「若松の未来をつくる検討会議」を開催し、若松区で活動する様々な団体から地域の課題や解決に向けたアイデア等を伺ってきました。この度、同会議において、検討結果報告書（案）が取りまとめられましたので、その内容に関して幅広く意見を伺うため、下記のとおり意見募集を行います。

## 記

### 1 意見募集期間

令和5年3月17日（金）から3月30日（木）まで

### 2 報告書及び意見記入用紙の配布場所

①若松区役所総務企画課（北九州市若松区浜町一丁目1番1号）

②若松区ホームページ（<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/wakamatsu/>）

### 3 意見の提出方法

#### ① 電子メール

メールアドレス waka-soumu@city.kitakyushu.lg.jp

#### ② 郵送

〒808-8501 北九州市若松区浜町一丁目1番1号

若松区役所総務企画課庶務係 宛

#### ③ ファックス

FAX 093-761-4975

若松区役所総務企画課庶務係 宛

#### ④ 指定場所への持参

提出窓口 若松区役所総務企画課庶務係

#### ◆問い合わせ先

##### 【検討会議に関すること】

若松区役所総務企画課 宮崎（課長）

石川（係長）

電話 093-761-4045

##### 【PCB廃棄物処理事業に関すること】

環境局環境監視課 野田（課長）

大田（係長）

電話 093-582-2175

## 地域振興策 意見記入用紙

あなたの居住地(該当するものに○)

若松区 ， 北九州市内(若松区以外) ， 北九州市外

あなたの年齢(該当するものに○)

20代以下 ， 30代 ， 40代 ， 50代 ， 60代以上

若松区の地域振興についてのご意見

ご協力ありがとうございました。

若松の未来をつくる検討会議  
報告書（案）

令和5年3月16日

若松の未来をつくる検討会議

## 第1章 検討会議の概要

### 1. 目的

若松区には、歴史や自然、海産物・農産物、環境・エネルギー産業など多様な魅力があるが、十分に活かしきれておらず、高齢化及び人口減少が進んでいる。

そこで、日頃から地域で様々な活動を展開している団体・事業者が、多様な魅力を「教育」と「観光」に活かすという観点から課題やアイデアを出し合って、若松の未来づくりに向けて、力を合わせて新しい一歩を踏み出すための検討を行った。

### 2. 検討内容

- ① 区内各エリアにはどのような魅力があり、どのような解決すべき課題があるか
- ② 魅力、イベント、産品等の情報を、いかにわかりやすく整理・共有・発信するか
- ③ 各魅力をいかに向上させるか
- ④ 参画意欲のある若者をいかに呼び込み、起業やチャレンジを後押しするか
- ⑤ 魅力的なツアーをいかに企画・催行するか
- ⑥ 学び・人材育成をいかにサポートするか
- ⑦ みんなで力を出しあう、つながり合う取り組みをいかに促進するか

### 3. スケジュール

令和4年11月に第1回全体会議を開催し、上記検討項目における課題の抽出などを行った。

次に、12月から令和5年2月に、テーマ別部会及びヒアリングにより課題解決策の検討を行った。

最後に、2月に第2回全体会議を開催し、これまでの意見のまとめを行った。

日時	会議内容	開催場所
R4.11.24	全体会議(第1回)	若松区役所
R4.12.12	子育て・学び部会	若松区役所
R4.12.26	中心市街地部会	若松区役所
R5.1.18	北海岸・西部地区部会	亀の井ホテル玄界灘
R5.1.27	連携・チャレンジ部会	若松区役所
R5.1～2月	響灘地区立地企業ヒアリング	若松区役所など
R5.2.28	全体会議(第2回)	若松区役所

※出席団体・事業者など

<p><b>全体会議（第1回・第2回）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あそびとまなび研究所</li> <li>・北九州エコタウンネットワーク</li> <li>・北九州市立大学</li> <li>・ザマティルタスイート</li> <li>・田中農園</li> <li>・筑前若松五平太ばやし振興保存会</li> <li>・松浦ファーム</li> <li>・若松あつまる会</li> <li>・若松がんばろう会</li> <li>・若松母の会</li> <li>・わかまつみらい</li> <li>・若松区自治総連合会（オブザーバー）</li> <li>・若松まつり行事協賛会（オブザーバー）</li> </ul>	<p><b>子育て・学び部会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あそびとまなび研究所</li> <li>・北九州キャリア教育研究会</li> <li>・北九州市立大学</li> <li>・九州女子大学</li> <li>・筑前若松五平太ばやし振興保存会</li> <li>・若松区食生活改善推進協議会</li> <li>・若松母の会</li> </ul>
<p><b>中心市街地部会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北九州市立大学</li> <li>・郷土史家</li> <li>・ドットシンクデザイン</li> <li>・MEGURI 若松実行委員会</li> <li>・若松商連</li> <li>・わかまつみらい</li> <li>・若松料飲組合</li> </ul>	<p><b>北海岸・西部地区部会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アグリゾート</li> <li>・亀の井ホテル玄海灘</li> <li>・北九州市立大学</li> <li>・田中農園</li> <li>・響灘緑地グリーンパーク</li> <li>・松浦ファーム</li> <li>・若松がんばろう会</li> </ul>
<p><b>連携・チャレンジ部会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北九州エコタウンネットワーク</li> <li>・郷土史家</li> <li>・ドットシンクデザイン</li> <li>・響灘ホップの会</li> <li>・若松高校同窓会関東支部</li> <li>・わかまつみらい</li> </ul>	<p><b>響灘地区立地企業ヒアリング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製造業者（5社）</li> <li>・リサイクル関連企業（2社）</li> <li>・物流関連企業（1社）</li> <li>・響灘地区工業団地自治会</li> <li>・若松あつまる会</li> </ul>

## 第2章 検討会議の意見

検討会議では、「誰もが、住みたい、住み続けたいと実感するまち」を目指して、地域が一丸となって、若松の多様な魅力な魅力を「教育」と「観光」に活かすための検討を行い、地元の団体や事業者などから、様々な意見や解決に向けたアイデアが示された。

また、響灘地区の立地企業のヒアリングでは、日頃、各企業が抱える課題について意見と解決に向けたアイデアが示された。

主な内容は以下のとおりである。

### 1. 未来に向けて地域が一丸となる

#### ① 「目標」に関すること

意見（課題関連）	解決に向けたアイデア
どういう人を増やしたいか、誰に来てほしいのかが定まっていない。	地域振興の目標は、後で振り返ることができるように数値化すべき。
	区役所はこれだけ若者を増やしたいとか、こんな風にしてくれとか、リーダーシップをとってほしい。
	若松に住んでいる人は、今ある魅力に良さを感じているから住んでいる。住んでいる人に、新しいことをする必要はない。だが、外から人を呼ぶために新しいことをすると、今住んでいる人の住み心地は悪くなるかもしれない。
	住みやすさと賑わいの両立を目指すためには、慎重な議論が必要。
	マルシェの来訪者も西部地区は若い層だが、中心市街地は若い人から年配の方まで様々。地域の特徴は考える必要がある。

#### ② 連携による魅力向上と情報発信に関すること

意見（課題関連）	解決に向けたアイデア
同じようなイベントには同じような参加者しか来ない。	他の団体と連携することで魅力を向上し、新しい参加者を呼び込みたい。
	他団体と共同で SNS の勉強会をやりたい。

	この検討会議のような連携の取組を続けてほしい。
個人や区で情報発信しても多くの人には届かない。	北九州市として若松をしっかり PR してもらうことが大事。
	他の施設や団体の魅力を知っておくべき。引き出しを増やすことで相乗効果が生まれる。相互訪問などの連携から始めてもいい。
	Web 情報を見てもらえないのは魅力が足りないから。見られるように努力するより、魅力を高める方が大事。
	今あるものを発信するだけなら、何も変わらないが、情報集約のメディアをつくるのはあり。編集部を若松駅に置けば、各自が自由に情報を持ってくる場所になる。
単に情報を発信しても相手は気付かない。	情報を収集し、整理して、ターゲットに発信する仕組みが必要。
	放送作家一人雇う方が早いかもしれない。
	資金がないならあるものを整理する。今ある情報の更新が先。
自分以外の情報はとりに行かなければ入手できない。	情報を集約して発信してくれる専任の人がいるといい。
自分の施設の情報発信は力を入れるが、他の情報は優先度が低くなる。	
デジタルが苦手な人もいる。	情報発信は、ネット上と実際の場所の両方が必要。
高齢者向けの情報発信も行うべき。インスタグラムばかりでは伝わらない。	
情報発信は、子ども、留学生、転入者、区外向けなど対象別のアプローチが必要。	子どもに情報を届けるのは紙媒体、市政だよりも届かない家庭にはポスティングなど、誰に何を伝えるかを丁寧に考えるべき。
五平太ばやしを見た子どもがやってみたいと思っても、どこに連絡したらいいかネットで調べても情報が出てこない。	情報を集約し、発信する仕組みが必要。

### ③ 連携の拠点（JR 若松駅の活用）に関すること

意見（課題関連）	解決に向けたアイデア
若松駅の周辺に土産店やインフォメーションセンターのようなものが全くない。	若松駅にマップがあり、QR コードで情報が得られれば、レンタサイクルでも各自が勝手に行くことができる。海の幸・山の幸を押し出すのもいい。
	いくつかの団体が連携して施設運営すると情報が豊富になる。
	ショップには家賃の補助や用具の提供などの仕組みがあるといい。
若者は目的地一つだけ決め、後はその場で魅力あるものを検索して散策する。他のものが近くにあれば行く。	若松駅に、大きなマップがあって、随時そこにモニターで何かが出ていて、グリーンパークや北海岸のアクセス、バスルートや時刻表など、そこに行けば何でもわかるという場所があるといい。
市営バスの時刻表サイトがわかりにくい。	
中心市街地に Wi-Fi スポットがない。	若松駅で Wi-Fi が使えるといい。
若松駅の乗降数が1日2000人なら、実質1000人。若松駅を拠点にするなら、人を呼び込むための仕掛けが必要。	マップやレンタサイクルがあれば、若松駅は、渡船や南海岸などへの中継拠点になる。
	折尾駅や、渡船でつながる戸畑駅に効果的な案内があるといい。
	年配者を集めるのは難しい。若い人が入りやすい、使いやすい施設とすべき。
門司や小倉には核となる施設がある。若松はまずどこに行くか選択肢がありすぎる。	若松駅を核施設に位置付けるのは一つの方法。但し、人がいて、点在する素材・資源について情報を共有していることが必要。
	いくつかの団体が連携して運営すると発信する情報が豊富になる。
若松駅は広くはない。あまり色々な機能は持たせられない。	まず、駅の乗降客の利用を想定すべき。イメージは電源やフリーWi-Fi があるワークスペース。買い物もでき、若者情報もあり、紙だけでなく映像も流れるスペース。
	夕方以降は、仕事帰りの人が酒を飲んで情報交換するスペースにすればいい。



	<p>昼と夜の顔を持たせるのはいいが、多分、飲食店にはなりえない。例えば、週1回、市場に出てない野菜を販売するとか、西部地区の人気店のポップアップショップを出すなら、話題性もあるし、相互にいい関係が築ける。</p>
	<p>隣の久岐の浜広場と一体で使えれば用途が広がる。</p>
<p>独立採算では運営できない。毎日売れるものは中々ない。スペース貸ししても、毎日は埋まらない。</p>	<p>無人化後の駅機能を一部担えば、収入につながる。</p>
<p>人はいるだけではだめ。コミュニケーションをとり、そこから情報を引き出し、共有し、すぐ発信するスキルがいる。</p>	<p>民間と行政で知恵と力を出し合う必要がある。</p>
<p>常駐で人を置けばコストが嵩む。</p>	

## 2. 若松の魅力を「教育」に活かす

### ① 郷土愛の醸成に関すること

意見（課題関連）	解決に向けたアイデア
若松にはいい企業がたくさんある。子どもたちが若松を誇れるようにしたい。	情報を集約して発信することで、ものづくりや農業の就職にもつながる。
地元の食べ物の良さを子どもたちに知らせたい。	
東部と西部の一体感が課題。西部には「若松の伝統芸能は五平太ばやし」と答えられる人が少ない。	若松駅の中に五平太の体験場所や紹介するモニターがあるといい。
「五平太ばやし」の小学生チームが減っている。小中高連携のロールモデルをつくりたい。	学生は、卒業で活動が途切れないように、毎年何人かが参加する流れが必要。
市民センターで五平太を頑張ろうにも道具が足りない。道具があっても傷んでいて修理できる人がいない。	

### ② 農業体験・食育に関すること

意見（課題関連）	解決に向けたアイデア
農業体験は食育などの子どもの教育につながる。地産地消にもつながる。	収穫などの体験は大きな魅力であり、道具や機械を使わなくてもできる。まず、若松区内の学校が1校ずつ順番に農業体験する仕組みをつくれませんか。
	農地へ行く拠点はひびきのがいい。ひびきには小学生が1500人いる。若松区東部や区外からも参加があれば十分な人数になる。予約制のコミュニティバスがあればそれで移動できる。

### ③ 若者の就労・定着に関すること

意見（課題関連）	解決に向けたアイデア
地域の中小企業は人手不足。高校生を雇用できないため、外国人技能実習生に頼っている。	地元の高校や特別支援学校の工場見学・農業体験を行うべき。単独ではでは内容が不足し成立しにくい。商流に沿って、複数事業所で合同実施したい。
障害者の地元就職ための情報が少ない。	
子どもや学生には若松に居る間に若松を好きになってもらうことが大切。ボランティアの学生が若松の企業に就職した例もある。きっかけがあり、縁が繋がれば地元に残る。	

若者の集う場所が圧倒的に足りない。若者を受け止める場所をつくればいい。	若松駅に学生が低価で自由に使えるイベントスペースがあるといい。若者が遊びに行く場所がないと言われるが、まず自分達が好きなことに使える場所が必要。
留学生と市民の交流はあまりできていない。	留学生に北九州市に残ってもらいたいなら、もっと地域と関係を築く努力をすべき。
	二島に住んで防犯パトロールにも参加する留学生は地域にも喜ばれている。だが、バスが少なく、通学は厳しい。
学研都市の留学生に若松の良さを知ってもらいたい。	学研都市の留学生会館で五平太体験ができれば、留学生は喜ぶ。若松駅を活用し、地域の学生に留学生の体験を手伝ってもらえるのもいい。その学生や留学生のチームで高齢者施設に行くなどの活動にもつながる。

#### ④ 地域ぐるみの教育に関すること

意見（課題関連）	解決に向けたアイデア
地域が、繰り返し、丁寧に、子どもの体験に寄り添うことが必要。	マルシェは人が集まる。若松駅でもやったらいい。顔見知り広がる。
コロナ禍の家庭の孤立は、子育ての環境として危険。	
中学生が地域の人たちと関わる機会が少ない。中学生向けの取組があるといい。	
子ども食堂もそうだが、何かするためには担い手側の大人が必要。最初のきっかけをつくらないと誰も自然には参加しない。	食進には200人のヘルスマイトがいる。マルシェも手伝いできる。他の協力もできる。

#### ⑤ 中心市街地に関すること

意見（課題関連）	解決に向けたアイデア
商店街がシャッター街になっているのが寂しい。	若松の企業に手伝ってもらって活気づけられるといい。
	マルシェに出店する母親たちも、立ち上げの賃料の支援があれば店舗を借りたいという人は多い。
	空き店舗で月1回、五平太を体験できるといい。地元の農産品でゆっくり食事できるスペースにもなる。

	商店街の大きな空き店舗を借りて、託児スペースをつくったら交流できる。
--	------------------------------------

⑥ 西部地区及び東西の連携に関すること。

意見（課題関連）	解決に向けたアイデア
ひびきのは0歳児が多いが、ベビーカーで立ち寄るところが少ない。	子育てふれあいルームの分室や、時限でいいので、児童館に代わるものがほしい。
	子育て広場を増やし、それを「見える化」して情報発信すれば、定住の促進にもつながる。
二島の商業施設内で子育て広場を3年続け、多くの親子が利用したが、店舗改装後はなくなっている。	再度、二島に拠点ができれば、そこから、JRを使って、若松駅方面に移動する動線ができる。
有料のクレカ以外で、東西の中心に拠点がほしいという意見は多い。	
ひびきのは、人口は増加しているがどこにも繋がっていない。中心市街地への動線はできていない。	
東西南北をつなぐには移動手段が必要。	予約制のコミュニティバスがあれば区内各地からエコタウンセンターなどにも行きやすくなる。

### 3. 若松区の魅力を「観光」に活かす

#### ①北海岸・西部地区に関すること

意見（課題関連）	解決に向けたアイデア
学生は、若松には遊ぶ場所や楽しめる場所が少ないとの理由で、小倉や八幡に行く。	エリアの魅力をエリアでまとめて発信したい。エリア全体が一つとなって観光につなげたい。
	海の幸・山の幸などの魅力を活かして、人を集められるといい。
	海は魅力。海を活用した何かがあるといい。
	若松駅で農業や漁業、観光地、マリンスポーツなどの映像を流せば、若い人など多くの人に知ってもらえる。
	グリーンパークにキャンプ場ができるので、近くの海や山を活用して、アウトドアエリアとしてPRできるといい。
北海岸はインパクトが弱い。	有明海岸にはメロンなどの形をしたフルーツバス停がある。若松名物のスイカやトマトのバス停ができないか。
アクセスが良くないので、車がないとどう行けばいいかわからない。	北海岸への無料シャトルバスを週末だけでも運行できないか。
グリーンパークのハイシーズンの来訪者は臨時バスでも捕え切れない。	
エリア周遊バスのニーズはある。	
高齢化、農経者問題が厳しい中、観光につなげるなどして、農業を守りたい。	農業体験は人に喜ばれる。検討会議のメンバーと連携すれば面白いことができる。
	連携して、潮風キャベツの良さを発信したい。
	農業体験には区外の子どもの多く来る。子どもが気に入れば移住もありうる。問題化している空き家をうまく利用できる仕組みがあるといい。
耕作放棄地の活用や転用が難しい。	
糸島は海岸沿いにカフェが並び、若者でにぎわっている。一方、若松は、農地が多く、市街化調整区域の問題もあり、建物を建てるのが難しい。	チャレンジしやすくしてもらえると若い人が集まる。
岩屋のジェラードは、車中で食べる人が多い。足を伸ばして、歩いて食べればと思うが、整備されてなくてもったいない。	

有毛はひまわりで有名だが、農地への立ち入り、ゴミのポイ捨てなどの観光客の迷惑行為や種子の作物への影響など農家にメリットがない。	助成があるとひまわり畑を継続でき、範囲も広がる。
遠見ヶ鼻など観光地の駐車場が不足している、迷惑駐車も多い。	
コロナ前、クルーズ船がハブポートに来ていたが、若松の滞在はあまりなかった。	クルーズ船が復活後は、若松を上げておもてなししてほしい。

## ② 中心市街地（高塔山～南海岸方面）に関すること

意見（課題関連）	解決に向けたアイデア
行けば面白いところはあるが、事前に得られる中心市街地の情報がよくわからない。	観光で来た方には、見所と魅力あるストーリーのきちんとした説明が必要。素材は沢山ある。ニーズを把握し、いいストーリーで楽しい思いをしてもらう仕掛けがある。
市街地周辺の資産を活かしながら、若く、若松にゆかりのない人にも伝わる、新しい魅力を創造していくことが大切。	旧古河鉱業ビルでトマトジュースを売る。それを目当てに来た人が「館長に会ったら、色々教えてくれる」と発信してくれると盛り上がる。
	旧古河鉱業ビルには魅力ある商品を置いてもらいたい。
	若松はブランドになる人（キャラクター）が多い。それも一つの魅力。
	南海岸の街並みを活かしつつ、若い人を呼び込むならコスプレ。若松を撮影スポットにする。今も日曜日にはコスプレイヤーが多い。だが、着替え場所がない。トイレがない。駐車場がないなどの声がある。商店街を開けて、色々やればもっと街が盛り上がる。
キッチンカーを出したいが、出す場所がない。	日曜日に南海岸を歩行者天国にして、キッチンカーを出すと、ずいぶん違う。
	水上警察署跡地の駐車場に試験的にキッチンカーを置いてみるのもいい。
	ここが使えるという情報も色々な人と共有できたらいい。
	マルシェもそうだが、キッチンカーも継続して、「この曜日にここに来る」という情報を植え付けていくことが大切。
南海岸の欠点は駐車場がないこと。	

若松区の魅力は色々なところに分散しすぎ。1つに絞り、まず成功させることが大事。	高塔山に絞るべき。夜12時に高塔山に行ったら若者が結構いる。音楽堂も全然活かされていない。高塔山で移動販売やイベントを行えばいい。
	若松は「環境」と「エネルギー」のまち。街中を実証フィールドとして展開できれば観光スポットにもなる。再生エネルギーの活用を「見える化」すれば来訪者も増える。コンセプトを持って進むべき。

#### 4. 響灘地区の価値を高める

##### ① 道路・交通事情に関すること

意見（課題関連）	解決に向けたアイデア
道路横断して右折する際、交通量が多く危険な箇所がある。事故も発生している。	信号の設置を検討してほしい。
公共交通の便が悪いので、採用募集しても車を持たない若い人の応募が少ない。派遣社員も同様。運転免許を持たない身障者の雇用にも影響がある。	通勤バスの共同運行ができないか。 通勤用のシャトルバスは乗車場所をどこにするかが難しい。
朝夕の渋滞が深刻。勤務シフトを調整し、出勤を早めるなどしているが、早朝（6:30頃）でも多い。	LNG 施設の建設工事で交通量はどうか。ピークカットできないならせめて情報を早く流してほしい。 シャトルバスやパークアンドライドは、今いる従業員の利用は進まないかもしれない。だが、LNG 施設建設の従事者の宿泊場所が比較的まとまっているならそこからのシャトルバスはあるだろう。
照明が少なく夜の道路が暗い。	
路面が悪い。	

##### ② エネルギーの共同利用・リサイクルに関すること

意見（課題関連）	解決に向けたアイデア
環境エネルギー産業拠点として知名度はあるが、企業間の交流がなく、多様な企業が立地する地区のメリットが活かされていない。	北九州市は循環経済の実装化を目指しているが、その舞台は専ら若松。エネルギーの融通や廃棄物処理の連携は当然あってしかるべき。
電気・燃料費が高騰し、経営に影響ある。	次世代エネルギーパークの立地企業で太陽光発電や風力発電が共同利用できないか。
工場廃液から金属回収したい。	エコタウンの立地企業でリサイクルができないか。

##### ③ 食事・宿泊・休憩場所に関すること

意見（課題関連）	解決に向けたアイデア
24時間操業の工場が多いので、廃熱利用の温浴施設とか、泊まれる施設があるといい。	響灘地区にトラックステーションがあれば、課題のいくつかが解決できる。
食事できる場所がない。	



道路の植え込みに弁当ガラや空き缶が捨てられ美観を損ねている。トラックステーションがないので路駐していることとも関係している。	
東港のトラックステーションはすぐ満車になるので、響灘地区に路駐して睡眠をとっている。	
社内に食堂はあるがメニューも限られており、キッチンカーの活用もできるという。	コンビニの新設が難しければ、どこかの駐車場にキッチンカーが集まる場所を設けられるといい。場所は橋の南側にあると渋滞するので、橋の北側がいい。
路上の弁当販売のまわりに車が集まり危険。	
コンビニが1店舗しかなく、いつも混雑している。	

#### ④ 人材の確保に関すること（外国人技能実習生を含む）

意見（課題関連）	解決に向けたアイデア
小規模企業が高校生を雇用できない。外国人技能実習生に頼っている。	小規模企業一社では工場見学の内容が足りないが、近隣の取引企業と共同で、雇用につながる工場見学を行いたい。
	社員教育も共同でできるといい。
	自転車通勤する外国人技能実習生への交通安全指導も同様に共同でできるといい。
	近隣企業と外国人技能実習生が交流できるといい。外国人差別の解消にもつながる。

#### ⑤ 響灘地区の企業の交流の場に関すること

意見（課題関連）	解決に向けたアイデア
交通渋滞、キッチンカーなどのカテゴリーごとに、話合いの場を設けたい。	若松あつまる会事務局は協力できる。

## 第3章 若松区の未来づくりに向けて

今回の検討会議において、様々な団体・事業者から示された、「若松の未来づくり」に向けた課題と解決のアイデアを以下にまとめる。今後の地域振興策に活かしていただきたい。

### 1 未来づくりの拠点をつくる

---

個々の団体の情報発信は、他団体と連携し、情報を集約・整理することで、相手により伝わりやすくなる。情報の収集と発信は、デジタルだけでなく、対面や紙媒体でも必要であり、拠点施設があればより効率的に行うことができる。

来訪者のおもてなしにおいても、区内の見どころや魅力的なストーリーを紹介し、ウォーキングやサイクリングの起点にもなり、土産等の販売も行う多目的の施設が必要である。

候補場所は、JR 若松駅がアクセスとシンボル性に優れ、上記の機能のほかにも、マップ・モニターの設置、コワーキングや飲食、イベントスペースの提供など、様々な活用が考えられる。また、車を持たない若い世代や西部地区の大学生にとって、若松の歴史や文化を知り、郷土愛を育む起点ともなり、若者の定着や、若松区東部・西部の一体感の醸成などの効果も期待できる。

地元の団体・事業者が連携し、情報の共有と発信、観光案内などを行う拠点の設置を検討すべきである。

### 2 子どもを育み地域の学びをサポートする

---

地元の高校や特別支援学校の学生、留学生、親子連れなどを対象に、若松の特色である農業や製造業、伝統芸能である五平太ばやしの体験や見学を行って、地元愛を醸成するとともに、地元定着、就労の機会につなげるべきである。

また、子育てや親子交流の環境を向上し、定住の促進にもつなげるため、北九州学術研究都市内の施設や商業施設、商店街の空き店舗や若松駅などについて、利用・活用を検討すべきである。

### 3 地域の魅力を高めて人を呼び込む

---

#### <北海岸・西部地区>

エリアの魅力のエリア全体での発信、バスなどによるアクセスの向上、来訪者の満足度を向上するための施設整備・開発促進、農業を活かした観光の振興などについて、地元の団体・事業者と行政が一体となって取り組むべきである。

### < 中心市街地（高塔山～南海岸方面） >

観光客のニーズに合わせたストーリーづくり、旧古河鉱業若松ビルの活用、コスプレイヤーの満足度向上、駐車場の提供、水上警察跡地や高塔山でのキッチンカーの出店、環境・エネルギー分野における商店街のブランド化などは、継続して検討すべき課題である。

### < 響灘地区 >

エリアの価値を高めるためには、リサイクル、再エネ共同利用などカーボンニュートラルの連携促進や、道路・交通、食事、宿泊・休憩などの環境向上が求められる。これら課題の解決には、カテゴリーごとに企業交流の場を設けるなど、立地企業が連携して取り組む仕組みづくりが必要である。

## 4 みんなで若松をつくる・支え合う

---

「誰もが、住みたい、住み続けたいと実感するまち」の実現に向けては、区民一人ひとりや地域の団体・事業者等と行政が一体となって取り組む必要がある。今回の検討会議のような場を継続して設けることが必要である。